

今後の課題

新しい土地で栽培が成功した喜びは大きいですが、その過程には幾つかの障害を乗り越えなければならない。これまでブラジルにおける香料・香辛料の育成に永年従事して来たが、その間アマゾンでのメ・アスーで胡椒の根腐れによる産地の衰退や、南伯地方のコーヒーが地力の低下に加えて銹病と霜害によって大きな打撃を受け、かつての壮大な面影を失いつつあるのを見てプランテーションのむつかしさを身にしみて感ずると共に、今後の栽培のあり方について再検討すべき時に来ていると考える。永々として築き上げた産地をごく短期間に壊滅させない為にも、自然と調和した栽培形態を追求して行きたい。

新刊紹介

◎熱帯林：行動のためのよびかけ (Tropical Forests: A Call for Action. Part I, II, III World Resources Institute, Washington, D. C., 1985, 12. 50 US\$ ただし 2～9部の場合 10. 50 US\$, 10～50部の場合 8. 50 US\$)

熱帯林が急速に減少していることは今や周知の事実であり、その減少傾向に歯止めをかけなければ、湿潤熱帯はあと2,30年で失われてしまうとさえいわれている。このような深刻な予測に対して、森林破壊の進行をくいとめることは可能だとする意見もある。この報告は、WRIが前向きな確信に立って、WB、UNDP およびいくつかの二国間援助機関と協力してつくりあげたもので、前書きにのべられているように、単に森林についてだけでなく、人間および彼等の生活向上にたいする見通しについても考えている。作成者たちは、この報告書が、森林破壊にたちむかっていく、世界をあげての努力に対して、先進国の指導者、援助機関および民間から財政的および施策的な約束をとりつけるのに役立つことに切望している。

WRI、WB、UNDP によって編成された国際的タスクフォース——農業、林業、保全分野の国際的な識者9名で構成——によるこの報告書は3部に分れている。Part I The Plan (49 pp.) では、前書きに続いて本報告の要旨を述べ、本文では森林破壊の実態、その結果起きていることを述べたあと、森林破壊は阻止できるとしてそのための要件を検討し、最後に行動計画をまとめている。Part II Case Studies (55 pp.) では、この問題に対してすでにFAOが取上げている5つの重点項目ごとに、成功しているプロジェクトなどの概要を紹介、Part III Country Investment Profiles (22 pp.) では、各項目ごと国別に行動の目標をかかげ、そのための所要経費を見積っている。因みに、タスクフォースの見積りによると、深刻な問題をかかえている56か国だけで、来るべき5年間(1987～'91)に約53億ドル(約1兆円)の投資が必要だとしている。(浅川 澄彦)